



西村証券

チーフストラテジスト  
門司総一郎の

# ウィークリーレポート

2023年  
12月4日  
発行

第197回

「トヨタ自動車という会社」

## 初めに

日本企業の業績が好調です。製造業の2023年4-9月期純利益は円安進行や供給網改善による生産回復、値上げなどにより前年同期から12%増え、非製造業もインバウンドの回復などで8%増加しました。なかでも注目されるのがトヨタ自動車です。2024年3月期の連結純利益が前期比61%増の3兆9,500億円になりそうだと発表しました。従来予想(2兆5,800億円)に比べ1兆3,700億円の上方修正です。22年3月期の2兆8,501億円を超えて2年ぶりの最高益となります。

## 豊田章男会長のインタビュー

以前、トヨタの豊田章男会長のインタビューを雑誌で読み、凄い人だなと思ったことがあります。そのインタビューはちょうどEVが広まり始めた時でしたが、トヨタのEVへの動きは他社と比較してゆっくりでスピードを欠いていると指摘されていました。彼の答えは「電気自動車になるとガソリン車に比べ部品数が少なくなり、そうなれば従業員をリストラせざるを得なくなることもあるだろう。だからEVへの移行はゆっくり進めている」というものでした。自分はその答えに思わず感動を覚えました。

## トヨタ御殿

自分は一度、トヨタ自動車を訪問したことがあります。トヨタの企業年金の方に市場見通しを尋ねられ、訪問して説明したものです。その時、社員の方に伺った話で、トヨタ御殿と言われているものがあると教えてもらいました。これは、社員の方が退職して家を持つ際に、それまでの貯蓄やトヨタの株式を原資にして家を建てる、こうして建てた家をトヨタ御殿と呼ぶ、とのことでした。この時に感じたのは、会社が成長することで従業員は素晴らしい家を建てる、いわば会社と従業員にWin-Winの関係が成り立っている。これは先ほどお話ししたEVへの移行に時間をかけたことに繋がるとは思います。トヨタは本当に従業員を大切にしている会社だということでした。これもトヨタの強さの一つと感じました。

## マルチステークホルダー方針

トヨタには、株主や顧客を始め、取引先、地域社会、従業員などのマルチステークホルダーとの協働を謳う「マルチステークホルダー方針」というものがあります。生み出された収益や成果について、従業員への還元や取引先への配慮が重要である、とするものです。トヨタの最大の財産は「人」であり、多様な人材が活躍できるように、仕事と育児介護との両立支援制度の拡充、家族手当など有期雇用者(期間従業員やパートタイマーなど)の処遇改善、教育機会や研修制度の拡充、などに取り組む、としています。トヨタが掲げるこの理念が、トヨタの強さを表しているのではないかと思います。



チーフストラテジスト  
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.  
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)  
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号  
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業  
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。